



博物館の窓

第103回

学芸員

持田 誠

令和5年度予算から、博物館では「標本製作委託料」を新たに計上しています。このたび、製作を委託していた札幌市の北洋美術工芸さんから「本剥製標本」が納入されました。

今年度製作したのは、エヅリス(夏毛)1体、シマエナガ1体、ハシボンガラス(幼鳥)1体、ハシブトガラス1体です。「ガラスなんて」と思ってもしれませんが、身近な鳥であるガラスにも種類があること、その違いなどをじっくり観察するには、剥製がもっとも良い教材になります。

また、これらの剥製は、採集年月日、採集地がはっきりしている「標本」でもあります。当館では従来も本剥製を所蔵していましたが、身近な動物よりも珍しい動物、また、採集情報がはっきりしていない「ただの剥製」が多く、標本という観点では使えないものが多かったのです。

来年度はスズメの本剥製を作る予定です。毎年少しずつ増やしていきますので、お楽しみに。

野生動物の本剥製を増やしていきます



上:奥の小さい個体がハシボンガラス幼鳥、手前がハシブトガラス成鳥の本剥製。
下:シマエナガの本剥製。

(北洋美術工芸製作・浦幌町立博物館所蔵)